

令和 7 年度

第 6 回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和 7 年 6 月 27 日 (金)  
開会 15 時 30 分 閉会 16 時 07 分

場 所 教育委員室

令和 7 年度  
第 6 回大分県教育委員会

**【議　事】**

(1) 報　告

- ① 令和 7 年度地域とともに輝く高校魅力化事業について

(2) 協　議

- ① 大分県立高校の学科改編等について
- ② 令和 8 年度海事職（甲板員・機関員・厨房員）の採用選考について

## 【内 容】

### 1 出席者

教育長	山 田 雅 文
委 員 (教育長職務代理者)	高 橋 幹 雄
委 員	鈴 木 恵
委 員	岩 武 代
委 員	岡 田 茂 弘
委 員	藤 田 敦
事務局 理事兼教育次長	大 和 孝 司
教育次長	山 田 誠 司
教育次長	木 村 典 之
教育改革・企画課長	鈴 木 耕 平
教育人事課長	神 屋 貴 志
高校教育課長	小 野 和 正
教育改革・企画課 総務企画監	和 田 博 幸
教育改革・企画課 課長補佐 (総括)	多 嶋 田 智
教育改革・企画課 主査	穴 見 ひとみ

### 2 傍聴人

1 名

## **開会・点呼**

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。  
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和7年度第6回教育委員会会議を開催します。

## **署名委員指名**

(山田教育長)

議事録の署名については、岡田委員にお願いします。

## **会期の決定**

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。  
会議の終了は16時00分を予定していますので、よろしくお願いします。

## **議 事**

(山田教育長)

始めに、会議は原則として公開することとなっていますが、協議第2号は人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採決) 全員挙手

(山田教育長)

協議第2号は非公開といたします。

(山田教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行

います。

## 【報 告】

### ① 令和7年度地域とともに輝く高校魅力化事業について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

まず、報告第1号「令和7年度地域とともに輝く高校魅力化事業について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「地域とともに輝く高校魅力化事業について」報告します。

1ページをご覧ください。本事業は、学校の特色化を図ることで、地域に信頼され、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進することをねらいとしています。今年度は、新たに杵築高校を含めた20校を採択しました。

事業の概要ですが、今年度は、昨年に引き続き高校の魅力づくりをさらに進めるとともに高校の魅力を発信するプロジェクトに全ての採択校が取り組むこととしています。

資料中段に、昨年度実施した高校の取組の具体例を挙げています。

宇佐高校では、探究学習の中で、高校や地域の魅力をYouTube等で配信する「バズる宇佐高」プロジェクトや外国の方々を英語で観光案内する「インバウンドナビゲーター」等に取り組んでいます。宇佐高校はこの春の入試で6年ぶりに定員を充足しました。

佐伯豊南高校では、4学科の学びに係る体験活動を通して、地域や中学生に魅力を発信する「豊南CIRCUS」を初開催しました。また、総合学科の探究学習において生徒が考案したゲーム感覚で市内の店舗や名所を巡るロゲイニングという体験活動が、内閣府主催のコンテストで九州経済産業局長賞を受賞しています。佐伯豊南高校は欠員の数が、前年から半減しました。

昨年の取組の成果として、採択校19校中、定員が充足したのが4校、前年入試と比較して欠員が減少したのは5校あり、5校全てが10名以上、欠員が減少しています。また、魅力の一つとなる出口保障である大学入試においては、総合型選抜や学校推薦型選抜による国公立大学合格者は採択校19校中11校で85名となっています。その中には、3校の専門科からの合格者を含んでいます。各学校が探究活動の充実を図ってきた成果によるものと考えています。

今年度については、高校の取組や魅力について、地域や中学生、その保護者への的確な情報発信ができるよう、各学校が学校PR動画の充実やSNS等を活用するなど、各学校の魅力発信をさらに強化することとしています。

2ページと3ページには、昨年度の魅力化事業について、地域との連携や地域

への情報発信に係る取組を紹介しています。宇佐高校、佐伯豊南高校については、さきほど紹介しました。3ページの久住高原農業高校では、地域との連携による「うし部」や「農業愛好部サフラン班」の取組は各種コンテストにおいて優秀な成績を収めています。日田林工高校では、全校生徒による「ひた千年あかり」におけるボランティア活動、中学校での出前授業等により地域や地元中学校との連携を推進しています。

4ページをご覧ください。令和7年度「地域とともに輝く高校魅力化事業」の取組の一覧です。各校において、地域と連携した探究学習の充実、地元行事への参加等による活力創出、地域や中学生への高校の魅力発信の強化を3本柱に、取組を実践しています。今後も各校の円滑な計画・実施を支援し、定員確保をはじめとする成果につなげたいと考えています。

報告は以上です。

(高橋委員)

地域の県立高校は頑張っていると思います。

昨日は、佐伯豊南高校のハンバーガーの開発が新聞に載っていました。企業と一緒に、売れないような魚を使った商品開発を行ったものでした。佐賀関漁港もサメを使ったハンバーガーの開発をしています。大分市内の高校とも連携できることがあると思いますので、色々な企業とのマッチングも図っていただければと思います。それで生徒の興味が湧き、そういう方向の就職や進学につながるよいと思います。

(小野高校教育課長)

なかなか生徒だけ、先生だけでは、考えつかないような発想、そして商品化など、企業と組むことによって実現可能になっていますので、引き続き連携を強化していきたいと思います。

(高橋委員)

是非、企業と協力しあって進めてください。

(鈴木委員)

最近、SNSの発信が各校盛んで、色々なところで見かけるようになりました。生徒さんもしっかり顔を出して、ユーチューバーのようにとても上手にされています。恥ずかしがることなく、放送部の生徒さんも出て、工夫を凝らして、見る人に学校の魅力を伝えています。中学生には、とても好評です。

私の子どもも、遠い学校に行きたいと言っており、学校の魅力が伝わっています。もし、通学できなくても、見学やオープンスクールに行くことも可能なので、雰囲気を見に行くことができると子どもにも言っています。色々な学校の魅力が、

やっと自発的に発信できている気がします。これからもつながっていくと思いますので、学校の取組を褒めてほしいと思います。

(岡田委員)

魅力発信することで入学者が増えたことを伝えると、高校生も喜ぶのではない  
かと思います。

(小野高校教育課長)

中学生に訴えることができるは体験入学が一番であることは間違いないと  
思います。対面で伝えることが大切ですので、体験入学に誘導していくためにS  
NSを魅力的なものにしたと聞いています。

さらに言えば、学校HPの充実を図っていくと、必要な情報が必要な方に届く  
と思います。これについては来週、全校集めてHP作成の研修会を実施します。  
様々な取組を進めていきます。

(高橋委員)

例えば、企業が応募して、全県立高校にYouTubeで配信する学校のコマーシャルを作つてみないかと持ち掛けたときに、各県立高校で作成は可能ですか。

(小野高校教育課長)

動画制作をしている県立高校もあり、宇佐高校は6秒で端的に情報を伝える動  
画を作成していました。作る技術も発想もあると思いますので、そうした機会が  
あれば可能だと思います。

(高橋委員)

コマーシャリングについては、テレビよりもYouTubeやSNSで流す方が多く  
なっているので、発信方法の一つとして取り入れるとよいと思います。企業とタ  
イアップして、生徒の作成した動画に順位をつけると、彼らの励みになるのでは  
と思いました。

(岩武委員)

19校の内、定員を充足したのは4校、減少したのは5校というのは、いい結  
果だと思いますが、この点は褒めつつ、まだまだやってほしいと思います。S  
NSの効果があるのはわかりましたが、現在の採択校の取組自体に対する中学生  
や保護者の評価はどうなっていますか。

(小野高校教育課長)

直接的に、この学校の評価はどうだったかということは把握していませんが、

昨年、中学生やその保護者にとったアンケートでの学校選択の理由においては、学校での探究的な学び、学科の学びといった声が高くなっているのは間違いないありません。こうした高校の学びを目にしている影響があるものと思います。

(岩武委員)

各学校がＳＮＳで発信しているとのことでしたが、例えば19校をまとめて教育庁チャンネルなどで発信しているのですか。

(小野高校教育課長)

19校をまとめて映像での情報発信はしていない状況です。ある程度、県として行うことの大切ですので、今回初めて、学校の紹介をまとめた冊子を作成しています。それを皮切りに、映像も検討していきたいと思います。

(岩武委員)

県教委として、魅力化推進事業の19校をまとめたものがあるとよいと思います。例えば、甲子園の出場校が毎日1校ずつテレビで紹介されています。のように、19校をその取組とともに発信していくと、見る側としてもありがたいと思います。可能であれば検討してください。

(小野高校教育課長)

ありがとうございます。

(山田教育長)

佐伯豊南高校が九州経済産業局長賞を受賞したことですが、各校の取組を審査して、特に優秀な学校を表彰してあげるとか、3つのプロジェクトそれぞれの部門で評価するなど、こうしたことを行うと励みになるのではないかと思います。こうしたことは行っていませんか。

(小野高校教育課長)

お聞きしながら、なるほどと思いました。個別に様々なコンテストに応募している学校はありますが、県としては、それ自体は行っていません。

(山田教育長)

優秀校を選んで、プレゼンをしてもらうとよいと思います。

(高橋委員)

それをするならば、メディアに協賛してもらうとよいと思います。もしかしたら後継者もできるかもしれません。

(鈴木委員)

もしそういった表彰をするのであれば、実際に生徒の定員を充足した等、プラスの要素があった学校は評価の対象としてほしいです。

三重総合高校は市内の中学生を集めて、ホールで各学科の発表をしました。当初子どもたちはあまり楽しみにしていませんでしたが、見に行った結果、高校生の発表が良くて、感心していました。

結果、普通科以外の学科は定員充足しました。効果として、本当に定員充足につながっている、学校の魅力発信につながっているという評価をプラスにしてほしいです。中学生に実際に響いたということが評価されると、よりよいと思いました。

(小野高校教育課長)

実際の声を聴くと、高校生にとっても先生にとっても励みになると思いますので、考えていきたいと思います。

(藤田委員)

細かいことですが、高校生が中学校に行って、先生の役をしたということですので、是非、将来教員になってもらいたいと思います。小学生、中学生に聞くと、教員に関心があるのですが、高校生になると下がっていくので、是非お願いします。

## 【協議】

### ① 大分県立高校の学科改編等について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(山田教育長)

次に、協議第1号「大分県立高校の学科改編等について」高校教育課長から説明をしてください。

#### ＜説明概要＞

○中津南耶馬渓校の令和8年度からの全国募集導入、学科名の変更について

- ・自然を舞台とした少人数での体験活動を広く周知し、全国から入学者を募集。
- ・学科名については、耶馬渓の自然を教材とした「環境学」、耶馬渓の食文化を通して人とつながる「社会学」を中心に据えた教育活動を展開することから、「環境・社会共生科」とする。
- ・「環境学」については、山国川流域の自然環境を教材に、環境問題や産業課題の解決策を考える学びを展開。

- ・「社会学」では、地域の方々から食文化を学び、高校生カフェを通して社会とつながる実践力を身に付ける。
- ・全国募集については、中津市から住居や一人暮らしの準備に係る支援をいただく。

○芸術緑丘高校音楽科の令和8年度からの全国募集導入について

- ・音楽科では、声楽・管・弦・打楽器、作曲等の個別レッスンを通じて高い専門性を身に付ける。
- ・芸術緑丘高校は、音楽科、美術科を併設する全国でも珍しい公立高校。
- ・現在、県外からの受験には事前の申請が必要だが、令和8年度入試からは申請を必要とせずに受験することが可能となる。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

こちらはいつ公表されますか。

(小野高校教育課長)

本日ご協議いただき、改めて議案として提出・承認いただいてからです。

(高橋委員)

学習内容を限定するのではなく、環境学として広く学ぶということですか。

(小野高校教育課長)

はい、幅広く学びます。

(高橋委員)

佐賀関では、日本文理大学と地域が「まちなかカフェ」をやっていて、知事も見学に来たことがあります。

そこでは、佐賀関の伝統的で独特なお好み焼きを提供しています。金曜日のみ営業していて、お年寄りも利用し、学生と一緒に麻雀をやっています。感動したのは、お好み焼きという佐賀関の文化を取り入れたことです。後継者不足でやめている人も多いのですが、学生と一緒に復活させたのはとてもよいと思いました。中山間地域の少子高齢化で若者がいないところに学生が一緒に入って、その独特的な文化を受け継いでもらうことは、環境にも食文化にもつながっていくと思います。

(山田教育長)

耶馬溪校の全国募集について、中津市からの支援については、吉富・上毛から

の生徒も対象になりますか。

(小野高校教育課長)

吉富・上毛の隣接地域については、県内の生徒と同じと考えています。このあたりは公表する際に確認しますが、近隣の生徒に不利益にならないよう考えたいと思います。地元の生徒にとっても進路保障できるように、あわせて考えていきたいと思います。

(山田教育長)

水上スキーの利用料免除とありますが、吉富・上毛の生徒はお金を払わないといけないのですか。

(小野高校教育課長)

確認します。

(鈴木委員)

通学可能ですか。航空写真を見ると、山間部のようでした。

(小野高校教育課長)

道はあるため、大丈夫です。

(高橋委員)

教育長が吉富・上毛の生徒を気にするのはわかります。もし、寮に入りたいという場合、補助金は出ますか。

(小野高校教育課長)

全国募集で幅広く他県から来る生徒に対する支援になり、後々は、移住・定住につながる可能性もあるため、こうした効果を狙いながら、限定的なものではなく、幅広くということになります。

(山田教育長)

他にありませんか。

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めています。

(山田教育長)

先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でその他、何がありますか。

(山田教育長)

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

## 【協議】

### ② 令和8年度海事職（甲板員・機関員・厨房員）の採用選考について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(山田教育長)

協議第2号「令和8年度海事職（甲板員・機関員・厨房員）の採用選考について」教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(山田教育長)

他にありませんか。

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めていきます。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

(山田教育長)

それでは、これで令和7年度第6回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。